



次世代個別指導@家塾
塾長・反田 亮

地域が元気であるために 子どもたちに 「勉強習慣」という 明かりを。

一夜漬け学習は、もう通用しない

「進学したいのに、学力不足でできない」
私が減らしたいと思っているのは、そんな子どもたちです。いま、受験が大きく変わっています。私が学生だった30~40年前は、多少学力が足りなくても、一夜漬けで試験を乗り越えることができました。

でも現在は違います。読解力、理解力、応用力、問題解決力、こうした「社会で本当に求められる学力」が受験で問われています。これらは、一晩で暗記して身につく力ではありません。

だからこそ、小中高のお子さんがある保護者の皆様に、こうお伝えしたいのです。

「勉強する習慣を、いっしょにつくってあげてください」

地元の学力レベル低下にショック

私は、人を教えることが好きです。大学時代にアルバイトをしていた塾にそのまま就職し、休みなく働きました。生徒たちが結果を出していくのがうれしかったのです。でも、がんばりすぎたのか、体を壊してしまいました。

無理がきかなくなり、地元である浜田市に帰郷。病院の事務職という安定した仕事に就くことができましたが、「これが自分のやりたいことなのか…」と違和感を感じていました。

そんなとき、浜田市の学力が大幅に下がっているというニュースを耳にしました。私が子ども時代、浜田市の学力レベルは県内でも高いほうでした。それが大幅に下がっているということです。

夢のスタートラインに立てるように

「これでは、子どもたちの夢が絶たれてしまう…」そんな危機感で胸がざわつきました。受験では、5教科の基礎ができていないと、問題を読み解くことができません。試験のスタートラインにすら立てないのです。大学を出て希望の仕事に就きたくても、受験する前にその夢が絶たれてしまうのです。

見回してみると、浜田市には5教科すべてをしっかりと学べる塾が非常に少ないことに気づきました。「ないなら作ろう」。そう思って開校したのが、次世代個別指導@家塾（アットホーム塾）なのです。

気づいたときは手遅れ…という現実

塾を開校して気づいたこと。それは、**中学時代に勉強習慣をつけているかどうか**が、**学力の分かれ目になっている**ということです。特に部活に励んでいる子ほど、その傾向が強くなります。

部活をがんばるのは悪いことではありません。でもやりすぎてしまい、勉強がおろそかになっているケースが少なくありません。将来その道でプロとして食べていくなら問題ありませんが、それはほんの一握り。大勢の子どもたちは、進学して就職するという道を歩みます。だからこそ、部活に打ち込んでいても、進学できるだけの基礎学力をつけておく必要があります。

でも、中学生になった途端、5教科を補うプリントの宿題がほとんど出なくなり、学ぶ習慣が途絶えているのが現状です。その結果、**中3の2学期になって、希望校に進む学力がないことに初めて気づく子どもたちが後を絶ちません。**

女の子の挫折を救ったご両親の姿勢

でも、希望はあります。まわりの大人達が親身になることで、子どもたちは夢に向かって羽ばたけます。

あるとき、不登校の女子生徒が塾にやってきました。勉強は好きだけど学校になじめず、高2のとき通信制高校に通うことになりました。

その子には夢がありました。英語を身につけ、海外のビーチで働くという夢です。そのためには、大学で学ぶ必要がありました。しかし、通信制高校の学びのレベルでは、大学進学は望めません。そこで塾で学ぶことにしたのです。

当時の偏差値は40。彼女は懸命に勉強していましたが、途中で「彼氏と同棲するから塾をやめる」など、何度か挫折しそうになりました。

このとき、**彼女を動かしたのは、ほかでもない、お父さんとお母さんでした。**彼氏のご両親に連絡を取り、子どもたちとともに話し合い、同棲はあとでもできる、いまは勉強に集中したほうが夢を叶えられる、と提案したのです。



その結果、その子はもう一度勉強に取り組むことができ、外国語大学に見事合格。偏差値は50近くまで上がっていました。

学ぶ習慣が地域を元気にする

子どもたちが受験に成功するかどうか。そのカギは、保護者がどれだけお子さんに寄り添い、勉強習慣をつくれるかにあると思います。

例えば、**お子さんが勉強しているときは、親御さんも同じテーブルで勉強する。資格の勉強でも何でもかまいません。**そうすることで、勉強するという習慣ができ、成績はあつという間に上がります。

逆に「勉強せえ」「こんな問題もできんのか」と言ってしまうと、お子さんはますます勉強しなくなります。

勉強習慣が広がれば、地域の学力レベルは回復し、社会に出たときに有用な人材がどんどん輩出されます。それによって地域に活気が生まれ、経済の底上げにつながります。

地元企業のみなさんには、子どもたちの「学ぶ環境づくり」にぜひ力を貸していただきたいと思っています。不登校の子も、障がいのある子も、すべての子どもたちが、家庭の事情に左右されることなく勉強できるよう、支援をお願いしたいのです。

「勉強しておいたら良かった…」。その後悔を減らすことが、私の使命です。微力かもしれませんが、今後も取り組みを続けていきます。

